小学校特別活動における豊かな人間性の基礎をはぐくむ指導に関する研究

ー「おなやみバスターズ」活動を取り入れた学級活動をとおしてー

久慈市立長内小学校　教諭　小　山　田　　忍

Ⅰ　研究目的

小学校特別活動では、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てることが求められている。そのためには、児童が集団生活をとおして相互にかかわり合うなかで、身近な対人関係を積極的にもとうとする豊かな人間性をはぐくむことが大切である。

しかし、本校児童の実態をみると、話し合い活動で友達の発言を聞こうとしなかったり、些細な原因から問題が次第に深刻化してしまったりする状況が多く見られる。これは、少子化や地域社会の変化のなかで人間関係を構築する機会が減少したために、相手の立場になって考えたり、その気持ちをわかろうとしたりする意識が育っていない児童が増えてきたことによると思われる。また学校においては、共同で活動する体験をさせ、他者とのかかわりをもたせるような指導が十分には行われてこなかったことにも起因していると考えられる。

このような状況を改善するためには、心理分析ゲームなどによって、身近な対人関係への気付きを促し基礎的な社会的スキルを身に付けさせ、相談事の解決にあたることで他者とのかかわりを構築していく「おなやみバスターズ」活動を取り入れ、豊かな人間性の基礎をはぐくむことが必要である。

そこで、この研究は、小学校特別活動において、「おなやみバスターズ」活動を取り入れた学級活動をとおして、豊かな人間性の基礎をはぐくむ指導について明らかにし、小学校特別活動の指導の改善に役立てようとするものである。

Ⅱ　研究仮説

小学校特別活動において、「おなやみバスターズ」活動を次のように行えば、豊かな人間性の基礎をはぐくむことができるであろう。

1　心理分析ゲームを活用し、互いの価値観の相違に基づき、聞くときや伝えるときに必要な姿勢や態度を意識する。

2　事前調査した相談事を対象にして、その解決をめざす。

Ⅲ　研究の内容と方法

1　研究の内容

(1)　小学校特別活動における豊かな人間性の基礎をはぐくむ指導に関する基本構想の立案

(2)　小学校特別活動における豊かな人間性の基礎をはぐくむ指導に関する実態調査及び調査結果の分析と考察

(3)　「おなやみバスターズ」活動を取り入れた学級活動についての指導試案の作成
(4)　指導実践及び実践結果の分析と考察
(5)　小学校特別活動における豊かな人間性の基礎をはぐくむ指導に関する研究のまとめ
２　研究の方法
(1)　文献法　　(2)　質問紙法　　(3)　指導実践
３　指導実践の対象
久慈市立長内小学校　第６学年　１学級（男子 19 名　女子 17 名　計 36 名）

Ⅳ　研究結果の分析と考察

１　小学校特別活動における豊かな人間性の基礎をはぐくむ指導に関する基本構想
(1)　小学校特別活動における豊かな人間性の基礎をはぐくむ指導に関する基本的な考え方
ア　豊かな人間性の基礎のとらえ方

豊かな人間性とは、これからの学校教育の在り方として育成されるべき資質である。具体的には他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心、正義感、公徳心、ボランティア精神、郷土や国を愛する心、世界平和、国際親善に努める心などである。また、豊かな人間性は、教育心理学においても、生涯をとおして不断に追求すべき人間の理想像としてあげられている。本研究がめざす小学校特別活動で育成されるべき豊かな人間性の基礎とは、上記の人間の理想目標が達成されるための基盤をなすものとして、「相手の考えや気持ちを理解しつつ自分の考えや気持ちを伝えようとする意識」ととらえ、対人関係調整意識とよぶ。

本研究は、小学校特別活動における「豊かな人間性の基礎がはぐくまれた児童の姿」を「他者や自己の感情及び状況を踏まえ、適切な判断を行いながら効果的に対人関係をもとうとする児童」ととらえた。そして、小学校特別活動において、豊かな人間性の基礎の構成要素を【表－１】のように「他者理解」「協同活動」「自己調整」と考えた。

【表－１】豊かな人間性の基礎（対人関係調整意識）の構成要素

要　素	対人関係調整意識の構成要素の内容
他者理解	対人関係を構築するうえで効果的な話の聞き方、伝え方を身に付けようとする意識
協同活動	相手と協力して問題を解決し、ともに向上しようとする意識
自己調整	他者の心情を洞察して、適切な判断に基づき、より望ましい言動をとろうとする意識

構成要素の「他者理解」は、対人関係を構築していくうえで、効果的な話の聞き方、伝え方を身に付けようとする意識である。この意識は、対人関係スキルが他者とかかわるうえで確かに有効であると認識することによって高まっていく。ここでいう対人関係スキルとは、良好な対人関係を維持していくための話の聞き方や伝え方の技能であるが、このような技能は表面的に上手にできることではなく、聞くためにあるいは伝えるために必要とされる知識や心の働きである。したがって、聞き方や伝え方を身に付けようとする意識をもたせるためのスキルととらえる。そして、「他者理解」の意識が前提となって、協力して問題を解決することで、ともに向上しようとする「協同活動」の意識が高まっていく。他者とのかかわりのなかで自分も向上していく児童は、他者の心情を洞察して、適切な判断を行いながら、より望ましい言動をとろうとする「自己調整」の意識が高まっていくのである。

イ　豊かな人間性の基礎をはぐくむ意義

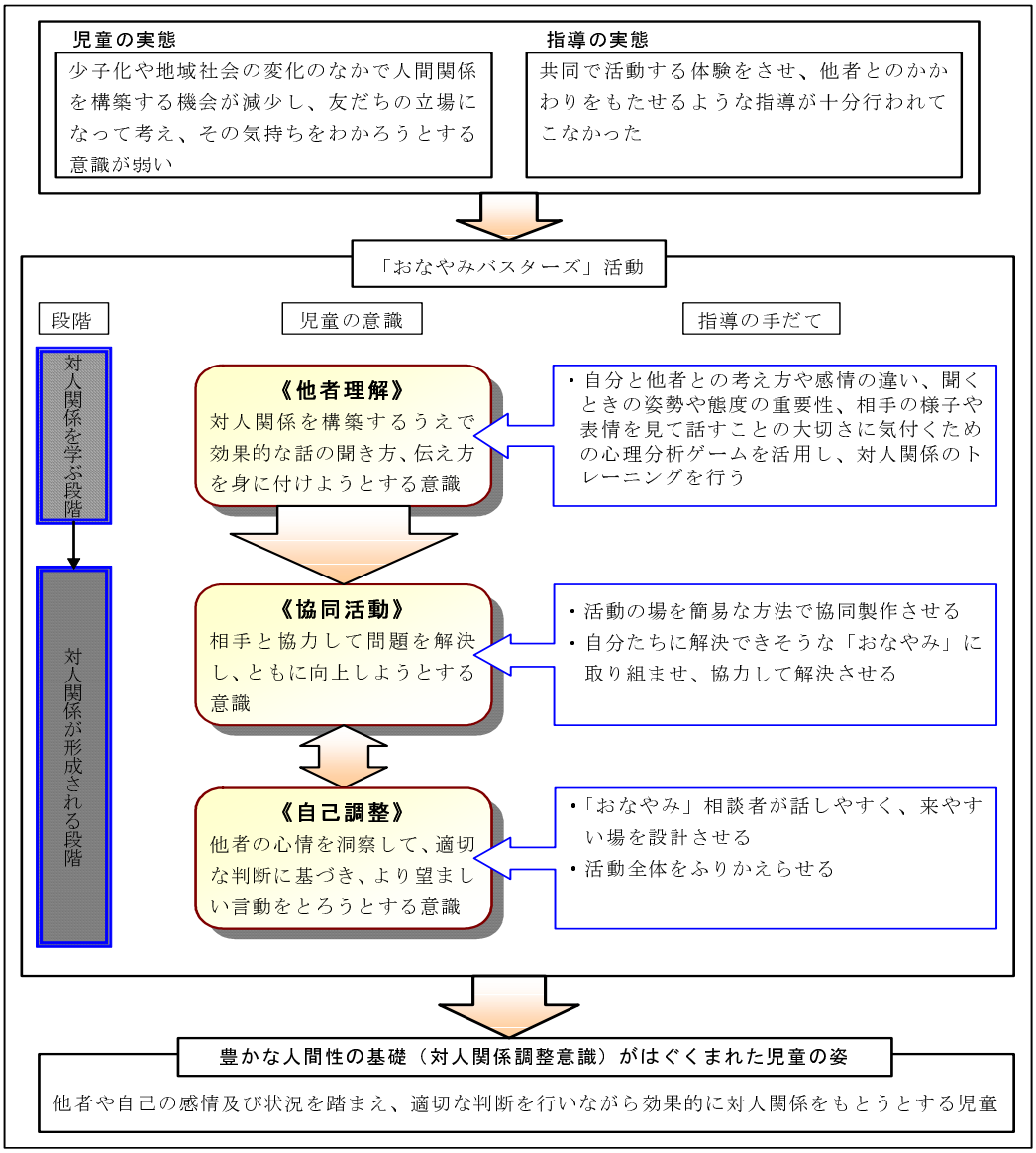
小学校特別活動では、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てることが求められている。集団の一員としての自覚を深めるということは、

自己のよさを知るとともに相手のよさも認めながら互いの魅力を感じ合い、そうした集団のなかに自己の存在を確認し愛着をもつことである。さらに、協力するためには、肯定的に相手の考えを受け止めながら自分の気持ちを伝えようとする意識が不可欠である。これらは、児童同士が互いにかかわり合うなかで育っていく対人関係調整意識、つまり豊かな人間性の基礎であると考える。そして、よりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度へと結び付いていくものと考える。このように豊かな人間性の基礎をはぐくむことは、思いやりの心をもって互いに助け合い、自分と違う考えを肯定的に受け止めながら自分の気持ちを表現しようとする意識を育てることに意義がある。

(2)　「おなやみバスターズ」活動を取り入れた学級活動の意義

一般に悩みとは思い苦しむことである。人にはなかなか話すことのできない深刻な内容のものが多く、打ち明けるにはまず互いの信頼関係が成立していなければならない。そうした悩みは児童のなかにも多く存在しているものと思われるが、本研究における「おなやみ」とは、学習でわからないことや学校生活にかかわる困った問題など「児童に解決の見通しがもてる範囲の相談事」ととらえる。そして、この活動が繰り返されるなかで児童の間に信頼関係が深まっていき、徐々に深刻な悩みも打ち明けられるような人間関係が構築されていくものと考えた。

「おなやみバスターズ」活動は、相手の立場になって考え、相手の気持ちを共感的に聞こうとする意識に直接働きかけ、対人関係に必要なスキルを身に付け、他者とのかかわりのなかで自分も他者とともに向上し役に立ったことを実感できる活動である。このように「おなやみバスターズ」活動は、児童が他者の役に立てたという自己の存在に価値を見いだしながら、対人関係調整意識を高めていくための場を意図的に設定することに意義がある。



【図－１】小学校特別活動における豊かな人間性の基礎をはぐくむ指導に関する基本構想図

(3)　「おなやみバスターズ」活動を取り入れた学級活動の展開

「おなやみバスターズ」活動は、「対人関係を学ぶ段階」から「対人関係が形成される段階」へと段階的に行われる活動である。「対人関係を学ぶ段階」では、教師主導のもと心理分析ゲームを活用したスキルのトレーニングを行うことで効果的な話の聞き方や伝え方を身に付けようとする意識を高める。この段階で、ある程度の対人関係スキルが育つが、次の「対人関係が形成される段階」で学年を越えたより多くの児童とかかわり合い、学び合うことでさらにスキルが強化されていくと考える。本研究は、６年生児童が１、２年生児童とかかわり合うことをきっかけとして豊かな人間性の基礎をはぐくもうとするものである。

(4)　小学校特別活動における豊かな人間性の基礎をはぐくむ指導に関する基本構想図

これまで述べてきた基本構想についてまとめたものが前頁の【図－１】の基本構想図である。

２　小学校特別活動における豊かな人間性の基礎をはぐくむ指導に関する実態調査及び調査結果の分析と考察

(1)　小学校特別活動における豊かな人間性の基礎をはぐくむ指導に関する実態調査の目的とその内容

ここでは、調査結果の分析から明らかになった点を整理し、小学校特別活動における豊かな人間性の基礎をはぐくむ指導試案にかかわる配慮事項を検討していく。（事態調査の分析と考察については本資料では省略）

調査から明らかになったことと指導試案作成上の配慮事項を【表－２】に示す。

【表－２】実態調査の結果から明らかになったことと指導試案作成上の配慮事項

明らかになったこと	配　慮　事　項
・ゲームへの参加意欲を示している児童は多く、孤立する児童もいないが、ルールがよくわからないために参加しないことがあり得ること	・導入のゲームは、児童のなじみの深いゲームを中心に扱いルールや人数構成を工夫する
・話し合いに参加している児童が多く、無関心な児童はいないが、約半数の児童が自分の意見や周囲に対して不安感を抱いていること	・相手の話の聞き方や自分の考えの伝え方についてのトレーニングを工夫し、話し合いの場面では、他の意見を否定しないルールを設定する
・「相談される」といった状況での人とのかかわりをもつ児童が少ないが、「遊ぶ」といった状況では他学年とかかわる児童が多いこと	・「信頼されている」「必要とされている」といったことが実感できるように相談活動の対象を年齢差を生かした１、２年生とし、活動場所を教室以外の場所に設定する

３　「おなやみバスターズ」活動を取り入れた学級活動についての指導試案

(1)　指導試案

「おなやみバスターズ」活動を取り入れた学級活動の指導試案作成上の配慮事項に基づき、指導試案を次頁の【図－２】のように作成した。

ア　対人関係を学ぶ段階

(ｱ)　緊張を和らげるための導入のゲームを毎時間行う。

(ｲ)　児童の困惑を回避するために、心理分析ゲームの目的を事前に説明しておく。

(ｳ)　「考え方の差異」「話の聞き方」「話の伝え方」についての心理分析ゲームを行うことで、聞き方、伝え方についてのトレーニングを行う。

(ｴ)　効果的な話の聞き方や伝え方についてふりかえる時間を設け、カードに記入させる。

イ　対人関係が形成される段階

(ｱ)　相談活動が意欲的に展開されるような活動の場を、児童のアイディアを生かし設置する。

(ｲ)　予想される１、２年生の「おなやみ」の例を教師側から提示することにより、自分たちに解決できそうな相談事について考える。

(ｳ)　班で協力して相談活動を行う。

(ｴ)　話し合いをさせる際には、互いに意見を言いやすいように相手の意見を否定しない約束で話し合いを進める。

(ｵ)　互いの活動のよいところを互いのふりかえりカードに記入し合う。

段階	活動のねらい	活動の内容	指導上の留意点
対人関係を学ぶ段階	・互いを知り合い仲間意識を高め、楽しい集団の雰囲気をつくり、真剣に相手の話を聞く方法や正確に相手に伝える方法を身に付けようとする	**＜学級活動・①＞** **・導入のゲーム** **・学習の目的や内容を理解する** **・心理分析ゲームⅠ「差異について」** **＜学級活動・②＞** **・導入のゲーム** **・心理分析ゲームⅡ「伝えることについて」** **＜学級活動・③＞** **・導入のゲーム** **・心理分析ゲームⅢ「聞くことについて」**	・最初の導入を丁寧に扱い、児童の緊張をほぐし、安心して活動できるようにさせる ・活動の最後に「ふりかえり」の時間を設け、対人関係には欠かせない大事な点に気付かせる
対人関係が形成される段階	・互いの活動を認め合い、尊重し合いながら「おなやみ」の解決をめざす ・他者の役に立つことで、学級や学校で自分が必要とされているという存在感を得る	**＜学級活動・④＞** **・自分たちに解決できそうな「おなやみ」について班毎に話し合う** **・相談部屋（移動式）の設計を考える**	・自分たちが１、２年生だった頃を思い出して現在の１、２年生が困っていると予想される「おなやみ」を考えさせる ・相手の意見を否定しないルールで話し合わせる
		＜学級活動・⑤⑥＞ **・相談部屋（移動式）の製作** ・学級執行部は１、２年生教室へアンケートをとりに行く	・１、２年生に書かせなくてもいいようにアンケート項目をパネル化して見やすいようにし、直接聞くようにさせる
		＜学級活動・⑦⑧＞ **・班毎に「おなやみ」の解決をめざし相談活動を行う**	・相談活動が意欲的に展開されるような活動場所を児童のアイディアを生かして設置させる
		＜学級活動・⑨＞ **・活動の全体をふりかえる**	・互いの活動のよいところや、かけられてうれしかった言葉や行動などをふりかえらせる

⇩

豊かな人間性の基礎の育成

「注」　活動内容の欄のゴシック体は、配慮事項に基づく指導の手だてを示す。

【図－２】「おなやみバスターズ」活動を取り入れた学級活動の指導試案

(2)　検証計画及び調査計画

「おなやみバスターズ」活動を取り入れた学級活動についての指導試案の妥当性をみるために検証計画を【表－３】のように作成した。（指導実践にかかわる意識の調査については本資料では省略）

【表－３】検証内容と処理・解釈の方法

検証項目	検証内容	処理・解釈の方法
「対人関係を学ぶ段階」における意識の変容状況	＜構成要素＞ ・他者理解	指導実践で用いた毎時間の児童のふりかえりカードへの記述内容を判断基準を用いて各段階における意識の変容状況を分析し、考察する （判断基準は本資料では省略）
「対人関係が形成される段階」における意識の変容状況	＜構成要素＞ ・協同活動 ・自己調整	
豊かな人間性の基礎の意識の変容状況	＜構成要素＞ ・他者理解 ・協同活動 ・自己調整	豊かな人間性の基礎を構成する三つの構成要素に対応した評定尺度の質問紙法により、変容状況を χ^2 検定（変化の検定）を用いて、指導実践の事前事後で比較する

４　指導実践及び実践結果の分析と考察

(1)　指導試案に基づく「おなやみバスターズ」活動を取り入れた学級活動の指導計画（本資料では省略）

(2)　「おなやみバスターズ」活動を取り入れた学級活動の指導実践の概要

指導試案に基づいて作成した学習指導案にしたがい、指導実践を行った。「おなやみバスターズ」活動を取り入れた学級活動の指導実践の概要を６、７頁に示した。

段階

対人関係を学ぶ段階　　対　人　関　係

学級活動①～学級活動③　　学級活動④～学級活動⑥

学習活動

は、教師の指示・発問

は、指導の手だて

心理分析ゲーム

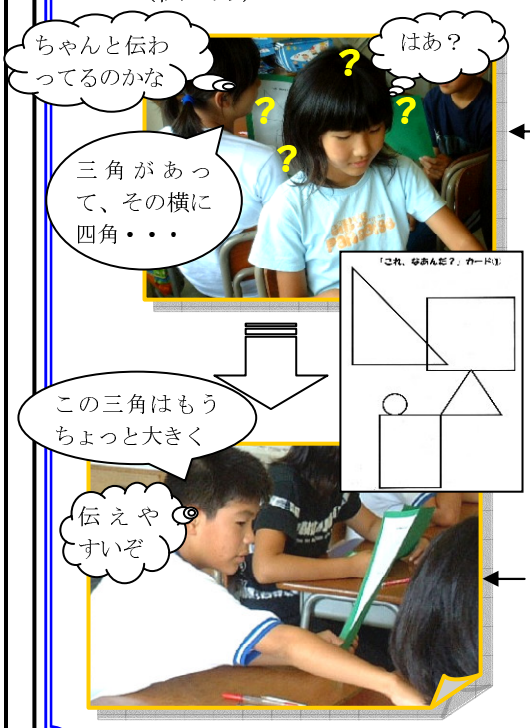
≪学級活動②≫

1　前回の学習のふりかえり

「前回のふりかえりをしましょう。みなさんが書いたバスターズ日誌の感想を読みますので聞いてください。人によって思っていることや考えていることが違っていてあたりまえなんだということが感想からわかりましたね。」

2　導入のゲーム「おそ出しじゃんけん」

3　心理分析ゲーム「これ、なあんだ？」（伝え方）



4　今日の学習をふりかえり、気が付いたことを「バスターズ日誌」に書く

≪児童が予想した「おなやみ」≫
- 算数の計算が早くできるようになりたい
- 漢字をたくさん覚えられるようになりたい
- ひらがなを上手に書けるようになりたい
- てつぼうが上手にできるようになりたい
- 一輪車に上手に乗れるようになりたい
- きらいな食べ物でも食べられるようになりたい
- 折り紙の折り方をたくさん知りたい

バスターズルーム製作（移動式）

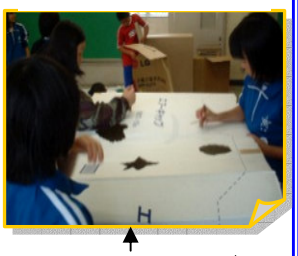
≪学級活動⑤⑥≫

「１、２年生が来やすいような部屋を作って６年生から行ってあげよう」という前回の話し合いをもとに、１、２年教室の隣の空き教室を使用し、３班ずつに分かれて移動式バスターズルーム製作の作業を進めた

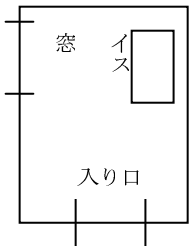
協力してダンボールをガムテープでつなぐ作業

最後までがんばるＧ君の姿を見習って・・・

１、２年生のことを考えて、班全員で協力していく



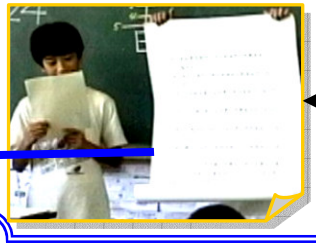
この班のステンドグラス風な天窓の影響を受け、各班の天窓も改良されていった



見取り図

１、２年生のことを考えたらこんなデザインに

１、２年生に「おなやみ」のアンケートを実施している様子



教師の準備した拡大コピーの「おなやみ」と、アンケートマニュアルでアンケートを実施している様子

が　形　成　さ　れ　る　段　階

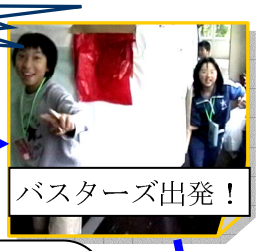
学級活動⑦～学級活動⑧

学級活動⑨

≪学級活動⑦⑧≫

バスターズ基本形

バンダナは頭に巻いても、腕に巻いてもＯＫ！



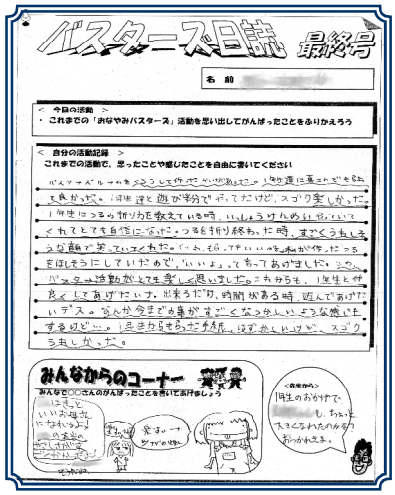
バスターズ出発！

バスターズパス

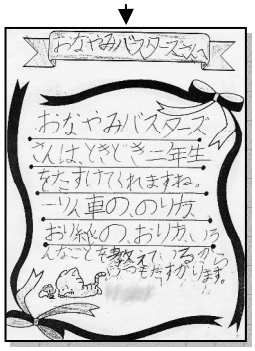
全体のふりかえり

≪学級活動⑨≫

①これまで記入してきたバスターズ日誌を読み返す
②教師が読み上げる１、２年生からの感想を聞く
③バスターズ日誌に全体をふりかえって書く



【１、２年生からのお礼の手紙の一

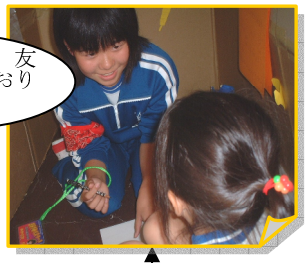


相談活動

バスターズルーム内部（１・２学年前廊下）で

む、むずかしい・・・

どうやったら、友だちとなかなおりできますか

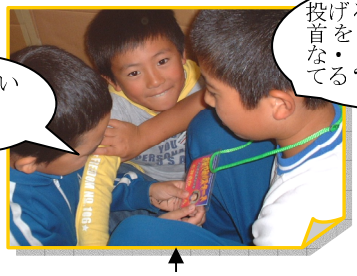


お絵かきの「おなやみ」解決中

計算の「おなやみ」解決中（紙使用）

いいよ！

さんさおどりおしえて！



これ、いいなあ

投げるときは手首を使ってだな・・・。聞いてる？

野球の「おなやみ」解決

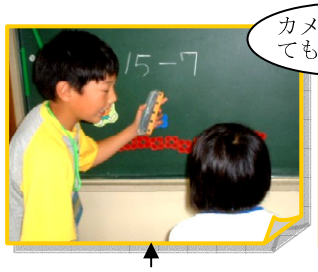
広いバスターズ本部へ移動！

バスターズ本部（生活科ルーム＆集会室）で

漢字の「おなやみ」解決中

なわとびの「おなやみ」解決中

折り紙の「おなやみ」



計算の「おなやみ」解決中（黒板使用）

カメラおしえてもらったよ

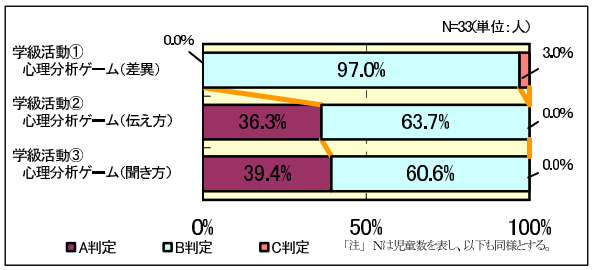
解決！

(3)　実践結果の分析と考察

ア　「対人関係を学ぶ段階」及び「対人関係が形成される段階」における意識の変容状況

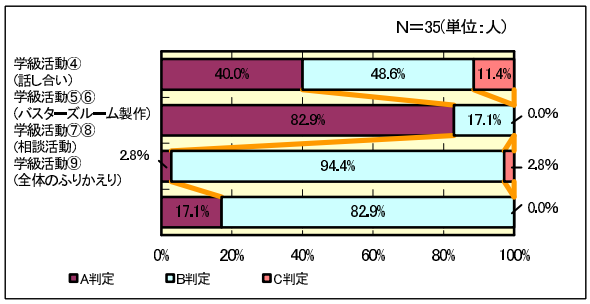
【図－３】は、「他者理解」の意識の変容状況を検証するために、バスターズ日誌の児童の記述内容を検証計画に基づき、その結果をまとめたものである。

このことから、学級活動①（差異についての心理分析ゲーム）ではＡ判定（他者理解の意識が高まった記述）の児童が０％で、学級活動②③（伝えること・聞くことについての心理分析ゲーム）では、Ａ判定の児童が学級全体のおよそ４割を占めていることがわかる。

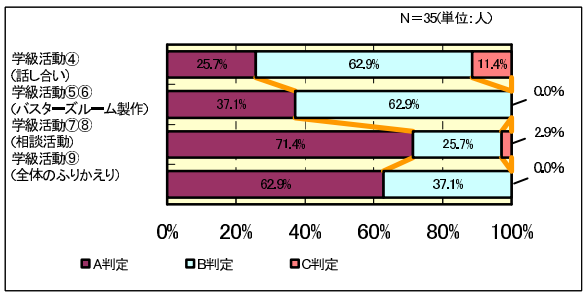


【図－３】「対人関係を学ぶ段階」における「他者理解」の意識の状況

学級活動①では、人によってそれぞれ考えが異なっていて当然であるという意識をもてなかったものの、学級活動③へと徐々にＡ判定の児童が増加していることから、心理分析ゲームを活用したスキルトレーニングが、対人関係を構築していくうえで大切な技能を具体的にとらえさせることはできたが、「他者理解」の意識を高めるまでの心理分析ゲームの在り方としては不十分であったと考えられる。つまり、児童の記述内容からもうかがえるように、例えば「１回目よりも２回目の方が伝えやすかった」ということは実感できても、「なぜ伝えやすかったのか、どんな点が大切だったのか」までふりかえらせる手だてが不足であったと思われる。しかし、「最初のゲームは、話を聞く大切さがわかりやすかったです。そのゲームが楽しくて大事なことがわかりやすかったです（Ｃ31）」に代表される児童の感想から、本研究における指導実践で用いた心理分析ゲームをさらに改善していくことで「他者理解」の意識を高める可能性があると考えられる。



【図－４】「対人関係が形成される段階」における「協同活動」の意識の変容状況



【図－５】「対人関係が形成される段階」における「自己調整」の意識の変容状況

【図－４】は、「協同活動」の意識の変容状況を検証するために、バスターズ日誌の児童の記述内容を検証計画に基づき、その結果をまとめたものである。

このことから、学級活動④（話し合い）及び学級活動⑤⑥（バスターズルーム製作）において「協同活動」の意識が高まったことがわかる。また、児童の記述内容からは「Ｍさんがみんなを引っ張っていたのを見て自分もがんばろうと思った（Ｃ３）」や「２班の星形に切ったりしていたところがよかったと思う（Ｃ25）」など、他の活動のよさを認め、自分も向上しようとする意識があらわれている記述が多く見られた。しかし、学級活動⑦⑧（相談活動）から学級活動⑨（全体のふりかえり）にかけては「協同活動」の意識の高まりは見られなかった。

以上のことから、これまで知らなかった互いの活動のよさをバスターズルームを協同で製作していくことで確認させることができ「協同活動」の意識を高めることに効果があったと考えられる。一方で、学級活動⑦⑧では、膨大な量の相談事に追われて、みんなで分担したり、協力したりという意識をもたせる手だてが不足していたと思われる。しかし、児童の記述内容からは「昼休みはＫ君と１年生のためにたくさん問題を作って楽しかった（Ｃ６）」や、学級活動⑨の全体のふりかえりでは、「み

んなの力を合わせたからこそできたこと(C36)」などの協力することのよさを認める記述も見られたこと、また、バスターズ日誌の「みんなからのコーナー」の記述で「１年生のおなやみをいやがらないで聞いてあげてえらいと思う(C29)」「Ｒちゃんは真剣にやっていたね(C22)」「M君がリーダーのようにがんばってたぞ(Ｃ８)」「Ｔ君がかがやいて見えた(C23)」「Mちゃんは前よりも１、２年生と遊ぶようになったよね(C10)」という内容からみても、６年生集団が班毎に協力して相談活動を行うことで、「協同活動」の意識が高められてきているのではないかと考えられる。

前頁の【図－５】は、「自己調整」の意識の変容状況を検証するために、バスターズ日誌の児童の記述内容を検証計画に基づき、その結果をまとめたものである。

このことから、学級活動④(話し合い)から学級活動⑨(全体のふりかえり)において「自己調整」の意識が高まったことがわかる。学級活動④(話し合い)及び学級活動⑤⑥(バスターズルーム製作)での児童の記述内容からは「１年生や２年生がよってくるようなバスターズルームを作るために考えたのが難しかった(C21)」や「工夫したところはげんかんみたいなところをアーチ型にしたところ。のれんみたいに三つあみにした。自分でかん板も作った(C24)」「アンパンマンの絵をかいた(C27)」などの１、２年生の立場で考えて活動していることが確認できる。また、学級活動⑦⑧の相談活動での児童の記述内容からは「言葉づかいに気をつけた」が多く「わかりやすいかと思って紙に書いて教えた(Ｃ５)」や「おり紙でつるをおっているときに１年生の様子を見ながら、おり終わるまでまっていて次に進んだ(C29)」などの相手の心情や発達段階に応じて望ましい言動をとろうとする意識も確認できた。

以上のことから、バスターズルーム製作や相談活動を中心とした活動が児童の「自己調整」の意識を高めることに効果があったと考えられる。

イ　「他者理解」「協同活動」「自己調整」の意識の変容状況

構成要素の「他者理解」「協同活動」「自己調整」の意識の変容状況をχ２ 検定を用いて事前と事後で比較した結果、それぞれ有意差は認められなかった。（有意差の有無を示す表については省略）

これは、調査問題が６年生の発達段階に適合しないレベルのものであったために、事前調査の段階でプラス反応を示す児童が多かったことによると考えられる。例えば、「相手のためにわかりやすく話そうと思いますか。」という設問では、「わかりやすく」の部分を「できるだけ詳しく」のように具体的な行動レベルで調査問題を作成する必要があったと思われる。よって、事前調査の段階で、児童の意識が「わかりやすく話す方がいいと思う」という「意欲」にとどまるプラス反応も混在していると考えられる。【表－４】は、「他者理解」「協同活動」「自己調整」の各構成要素について、活動後により意識が高まったと考えられる児童の記述内容を示したものである。

このことから、「他者理解」の意識については、言葉遣いに気を付けて話そうとする意識や相手の反応に合わせて笑顔で対応しようとする意識があらわれている記述が確認できた。また、「協同活動」の意識については、これからも機会があればバスターズルームを協同で製作し、協力して相談活動を行いたいという意識があらわれている記述が確認できた。さらに、「自己調整」の意識では、活動そのものは終わったけれども、相談活動を行ったことで、これからも１、２年生と遊んであげたいという意識があらわれている記述が確認でき

【表－４】活動後により意識が高まったと考えられる児童の主な記述内容

構成要素	記述内容(児童の記述をそのまま抜粋)
他者理解	ぼくたちにとっては、なんだと思っても１、２年生にとっては大切なことなんだと思った。言葉づかいにも気をつけないといけないんだな。(Ｃ４)
	なやみを聞いた後、このバスターズルームは２年生には必要だなあと思った。(C17)
協同活動	みんなで協力したことを思い出してまたやりたいと思います。(Ｃ３)
自己調整	今回で終わりだけどもっとバスター(解決)したいと思った。(C10)
	この活動のおかげで最近では１、２年生とよく遊ぶようになりました。これからも、１、２年生にたよられるように６年生としてがんばりたいと思います。(C22)
	これからも、１年生と仲よくしてあげたいな。できるだけ時間があるとき、遊んであげたいです。(C29)

た。

以上のことから、これまで漠然と「何となくわかりやすく話すことがいいと思う」と感じていたと思われる児童が、指導実践後には、「優しい言葉遣いで話すことが大切だと思った」とより具体的な形で行動しようという意識にまで高まってきたと考えられる。よって、「おなやみバスターズ」活動を取り入れた学級活動が具体的な行動レベルでの意識にまで高める効果があるのではないかという見通しをもつことができた。

ウ　「おなやみバスターズ」活動を取り入れた学級活動についての意識（本資料では省略）

１　小学校特別活動における豊かな人間性の基礎をはぐくむ指導に関する研究のまとめ

仮説に基づく指導実践において明らかになったのは、以下のとおりである。

(1)　心理分析ゲームを活用したスキルトレーニングが、対人関係を構築するうえで大切な技能を具体的にとらえさせることに効果があったこと。

(2)　話し合い活動やバスターズルーム製作の活動が、これまで知らなかった互いの活動のよさを認め合わせる活動として「協同活動」の意識を高めることに効果があったこと。

(3)　相談活動やバスターズルームを協同で製作していく活動が、児童の「自己調整」の意識を高めることに効果があったこと。

(4)　「なぜ伝えやすかったのか」「どうして聞きやすかったのか」などの大切なポイントに迫るような心理分析ゲームの進め方の改善が必要であること。

(5)　相談活動の場面では、班全員で協力する意識や級友のよさを認め、自分も見習おうとする意識を高めるためのふりかえりのさせ方について改善が必要であること。

以上のことから、小学校特別活動における豊かな人間性の基礎をはぐくむためには、「おなやみバスターズ」活動を取り入れた学級活動が有効であるという見通しをもつことができた。

Ⅴ　研究のまとめと今後の課題

１　研究のまとめ

本研究は、小学校特別活動において「おなやみバスターズ」活動を取り入れた学級活動をとおして、豊かな人間性の基礎をはぐくむことをねらいとし、小学校特別活動の指導の改善に役立てようとするものである。そのため、豊かな人間性の基礎をはぐくむ指導に関する基本構想を立案し、「おなやみバスターズ」活動を取り入れた学級活動についての指導試案を作成した。そして、指導実践を行い、実践結果について分析し、考察した。χ^2検定では有意差は認められなかったものの、実践過程での児童の記述内容を分析することで、各構成要素における意識の変容状況について全体的に高まっていく傾向にあったことが確認できた。その結果、仮説が有効であるという見通しをもつことができた。

２　今後の課題

相談活動では、上学年（６年生）と下学年（１、２年生）とのかかわりを中心とした活動が多かったが、学級内（６年生同士）の対人関係調整意識にかかわる意識の変容がさらに確認されるような活動の展開を工夫していく必要がある。

【主な参考文献】

皆川興栄著　「総合的学習でするライフスキルトレーニング」　明治図書　1999 年

滝　充編著　「ピアサポートではじめる学校づくり・小学校編」　金子書房　2002 年